

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスLUMO今津校		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 25日		2025年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	69名	(回答者数) 47名
○従業者評価実施期間	2025年 1月 25日		2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 28日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者の課題に合わせた運動内容の提供	クラスが始まる前に運動メニューを指導員で考える 職員で共有しておくことでサポートが必要な人数・どのようなサポートが必要か。などを考えることができ、円滑に運動が進められている。	クラス終了後の振り返りの時間を設ける。セミパーソナルもあるためすべてのクラスの振り返りができていないのが現状だが、よかった点・改善が必要なことを都度話し合いすることで指導力の向上につなげる。
2	原始反射を統合するプログラムの設定	個々の個別支援計画に沿った運動プログラム・日々のモニタリング会議で検討した内容を理解した上でメニューに組み入れ課題の達成を目指している。	原始反射の残存チェックをウォーミングアップに取り入れることで、その日の状態を把握する。その後メニューの増減や変更をする。など臨機応変にどのスタッフも対応できるようになる。
3	お送り・お迎え時のフィードバックと月に一回の支援経過での活動報告	運動時に写真・動画が撮られた際は、共有させていただいている。	お会いできない保護者様には、月に一回来所していただき、様子をお伝えする

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	【運動スペースの狭さ】ご利用人数によっては運動メニューに制限がある場合がある。	・人数が多いと運動中に衝突してしまうことがある。突起している角や荷物置き場に衝突しないようサポートに入る職員の立ち位置の確認、プログラムの配置には十分に気をつけている。ビジョントレーニングとして取り入れたいボールキャッチ・風船タッチなどは人数が多いと衝突につながる為メニューに組めないこともある。	・運動に使う道具のみ置くように取り組みをしている。使わない道具は、事務所に置いている。 ・利用人数が少なくフロアに余裕があるときにボールキャッチや風船タッチのメニューを取り入れている。
2	【異年齢での運動プログラム設定】年齢差が大きいクラスがあるので課題の設定が難しいときがある。	・ペアワークを組むときに年齢差が大きいと難しいメニューもあるので工夫が必要。	・小学生以上の児童には、個別で難易度を上げるようにしている。それぞれに目標に向けてスモールステップで達成感を感じられるようにする。
3	【職員の異動】職員の異動が激しく業務が安定しない。	【校舎間の異動】異動が伝えられるのが直近であることが多いため、保護者や子どもにお伝えできずに異動することもある。	・異動が分かった時点でのご利用者様への報告 顔写真・名前を教室内に掲載。またフィードバック時に職員自ら自己紹介をするように徹底する。こどもも職員の異動に戸惑うことがあるので慣れるまでは職員も子どもも名札を使用して運動する。